

赤城山におけるニホンジカの生息状況について

群馬県環境森林部自然環境課
群馬県立自然史博物館

1 はじめに

ニホンジカは、群馬県北東部、南西部に広く分布している。ニホンジカは尾瀬での食害が問題となる。

平成9年の調査によるとその生息域は広く分布するものの県央部に近い赤城山でも生息が確認されていた(図1)。近年になり赤城山南面でのニホンジカの密度が高まりに伴い、交通事故や植物への食害が発生したことから、その実態把握を行うこととなった。

2 調査内容

- ①シカの生息密度確認するためのライトセンサス
- ②白樺牧場、地蔵岳を中心とした植物への食痕状況把握

3 調査期間

2008年6月～2009年1月(継続調査中)

4 調査方法

- ① ライトセンサス
スポットライト(BRINKMANN社QBeam 200万カンデラ)を主に用い調査コースを低速で移動する自動車にて沿道を照らしながら、シカのカウントを行った。
- ② 食痕状況調査
対象地域を踏査し、食痕の状況について写真およびその位置を記録をした。

5 調査地域

ライトセンサスについては4地区を選定し調査を実施する(図2)。また、食痕状況については、鈴ヶ岳(1564m)、地蔵岳(1673m)、駒ヶ岳(1689m)、黒檜山(1827m)の大沼側を中心に踏査した。

調査地1: 主要地方道前橋赤城線の旧料金所跡地(標高550m)を開始地点とし、小沼駐車場(標高1500m)までの約14.9km。

調査地2: 富士見村西大河原地区(中心標高600m)周辺

調査地3: 国立赤城青少年の家(中心標高550m)周辺

調査地4: 宮城村赤芝地区(中心標高750m)周辺

図1 平成9年頃の生息状況

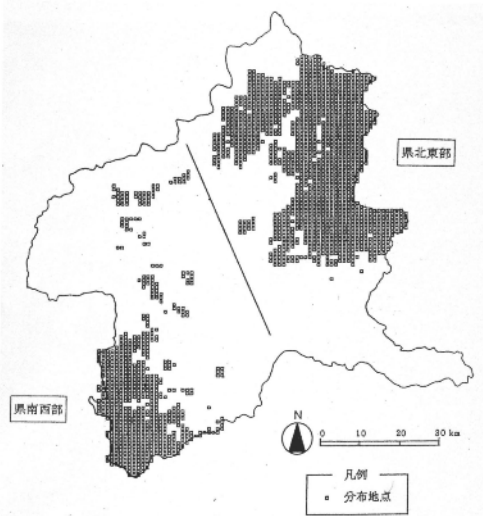


図2



6 調査結果

(1) ライトセンサス

7ヶ月間の調査を実施した結果、調査値1において6月～10月下旬までは多数のシカが発見された(表1)。特に、山頂部の白樺牧場では、高密度に生息し放牧中の牛とともに共生している状況が確認された。牧場では、牧草を接触するために多数のシカが高密度に群がる状況であった。

調査地2においては、いずれの期間もシカが発見がなかった。

調査地3においては、6、7、9、10月に数頭の発見があった。

調査地4の赤芝牧場周辺では、7～12月(6月は未調査)に複数のシカが発見され、恒常的に利用される状況であることが判明した。

図3及び図4に夏季、冬季のシカの生息状況を示す。(円の中心部において発見があり、大きな円ほど多数のシカが発見されていることを示す。)

この結果から、夏季から秋季にかけ白樺牧場を中心に生息があり、冬季には標高1000m前後に生息域が移動していると予測された。

図3 (H20.9調査)

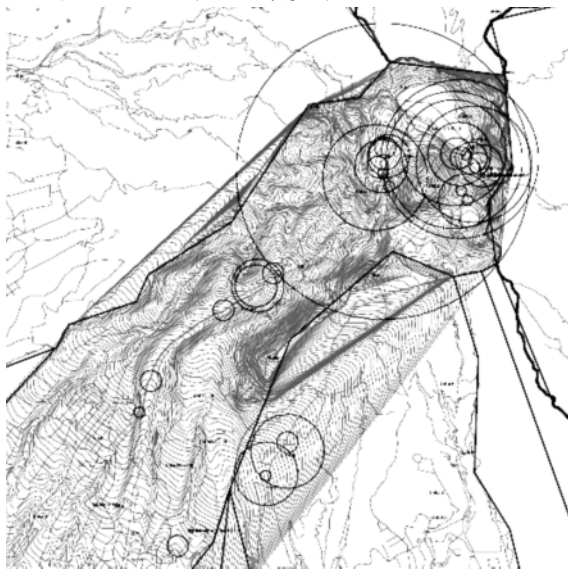


図4 (H21.1調査)



(2) 食痕調査

鈴ヶ岳(1564m)、地蔵岳(1673m)、駒ヶ岳(1689m)、黒檜山(1827m)の登山道を中心に踏査にて調査を行った。黒檜山、鈴ヶ岳の頂上付近を除きいずれの場所においてもササ(写真1)やリョウブ(写真2)など嗜好性の高い植物について食痕が広く確認された。駒ヶ岳と黒檜山の中間に部分での食圧は高く、シカの移動ルートに当たる場所と予測された。

写真1



写真2



表1

調査月	発見頭数	備考
6月	97	
7月	144	
8月	96	濃霧のため一部視界不良
9月	150	濃霧のため一部視界不良
10月	180	
11月	20	降雪のため視界不良
12月	28	
1月	13	



Hiroyuki Sakaniwa
E-mail: Sakaniwa-hi@pref.gunma.jp

Natural Environment Division